

IIBC NEWSLETTER

October 2021 Vol. 144

10月19日は「TOEICの日」

「TOEICの日」制定特別企画 TOEIC® Programと 英語を深く知る

p2 TOEIC® Program 誕生秘話

p6 IIBC AWARD OF EXCELLENCE 受賞者に聞く
英語学習法とTOEIC® Testsの魅力
北浦 恵子さん、阪本 郁哉さん、
松本 一則さん、南 奈美さん

p10 英語はいかにして世界の共通語に
なったのか
慶應義塾大学文学部 教授 堀田 隆一氏



阪本 郁哉さん

南 奈美さん

北浦 恵子さん

松本 一則さん

堀田 隆一氏



英語がもたらした 私のターニングポイント

p14 国連事務総長特別代表（防災担当）
兼 国連防災機関長
水鳥 真美さん



English Frontline
在住外国人の妊娠・出産・
育児を産官学連携で
語学面から支援 p16



「TOEICの日」制定特別企画

10/19

10月19日は「TOEICの日」

TOEIC® Programと 英語を深く知る

英語学習の面白さや、英語を使ったコミュニケーションで得る喜びなど、「英語の楽しさ」を皆様に体験していただきたい——。そのような思いを込め、IIBCは2021年より、10月19日を「TOEICの日」として制定しました。今号では、それを記念した、3つの特別企画をお届けします。

PART 1

TOEIC® Program 誕生秘話

特別企画第1弾は、TOEIC® Programが誕生するまでの歴史物語です。現在では、世界の160カ国で実施される「世界共通のテスト」となっていますが、実はその誕生に、3人の日本人が大きく関与していました。事業を立ち上げるべく、彼らが抱いていた熱き思いや、妥当性・信頼性・公平性の確保を最も重視した、TOEIC® Programの開発ストーリーなどを紹介します。

誕生のきっかけは、2人の人物の出会い

TOEIC® Programが産声を上げたのは、今から42年前のことです。1979年12月2日に、第1回TOEIC® L&R公開テストが、札幌・東京・名古屋・大阪・福岡の5都市で開催され、3,000名が受験しました。

TOEIC® Programは、ある2人の人物の出会いがきっかけとなり誕生しました。その人物とは、北岡靖男(1928～1997年)と、渡辺弥栄司(1917～2011年)です。

北岡は、アメリカのニュース雑誌「Time」で知られる、Time社に24年間勤務していました。長らく営業畑を歩んだ後に、アジア総支配人を務めたという経歴の持ち主です。1974年にTime社を退職すると、国際コミュニケーションズを設立。東

京の青山ビルにオフィスを構え、日本人の英語でのコミュニケーション能力を育成する、教育プログラムの開発を行っていました。

一方、渡辺は、通商産業省(現・経済産業省)で、官房長や通商局長などを歴任。66年に退官した後、実業家の岡崎嘉平太氏に師事し、断絶していた中国との国交を正常化させることに注力しました。日中の国交正常化が実現した72年に、日中経済協会を設立し、理事に就任。同協会のオフィスも青山ビルで、国際コミュニケーションズと同じフロアにありました。

同じフロアにオフィスを構える北岡と渡辺が、顔見知りになるのはごく自然な流れでした。あるとき、いつものように顔を合わせた2人の話題は、日本人の英語教育へと発展しました。

「渡辺さんは、今の日本の英語教育は、あれでいいと思いませんか」

最初に言葉を発したのは、北岡でした。後に渡辺は、信念にあふれた強い口調であったと振り返っています。今考えれば、この北岡の一言が、TOEIC® Programが誕生する発端になったのかもしれない。

日本人の英語力の現状をめぐり意気投合

北岡は外資系企業で働く国際派のビジネスパーソンとして、グローバルなビジネスシーンにおける、日本人の姿をつぶさに見てきました。英語でのコミュニケーションが思うように図れ



北岡靖男(1928～1997年)



渡辺弥栄司(1917～2011年)

ず、商談や会議の場で実力を発揮することができない日本人ビジネスパーソンたち……。その姿は北岡にとって歯がゆいものでした。

当時の日本は、既にGNP(国民総生産)世界第2位と、まごうことなき経済大国。70年代に入ってから、自動車や電気機械、半導体などの分野が成長を遂げ、積極的に海外展開を進めていました。

一方、その頃のアメリカの産業は、省力化や労働生産性の向上などにおいて日本に後れを取り、国際競争力を低下させていました。特に自動車の分野では、小型で燃費の良い日本車に市場を席卷され、アメリカの自動車メーカーがレイオフ(一時的解雇)を行うようになるなど、日米経済摩擦へと発展していきような情勢にありました。

日本の企業が海外へと市場を拡大していく状況の中、英語でのコミュニケーション能力が乏しいため、あつれきが生じた場合、それを解消することに苦労している日本人ビジネスパーソンを見るにつけ北岡は、「日本人の英語でのコミュニケーション能力を向上させないと、これからの日本は、国際ビジネスの世界で通用しなくなる」という思いを強くしていたのです。

一方、渡辺もまた、国際舞台での経験を数多く踏んできた人物。通商産業省時代には、ソ連(現・ロシア)のモスクワで駐在経験もあります。また第2次世界大戦中に、インドネシア語をマスターして不自由なく話せるようになるなど、高い言語学習能力を有していました。

渡辺も「これからの日本人は、相手が話していることを理解した上で、自分の意見を明確に伝えるといった、生きた英語力を身に付ける必要がある」と考えていました。

北岡と渡辺は、日本人ビジネスパーソンの英語でのコミュニケーション能力や、日本の英語教育の状況をめぐり意気投合。「約1億人いる日本人のうち、最低1割が英語を使いこなせるようになれば、国際社会における日本のビジネスは、大きく変わるだろう」と語り合いました。

英語力を客観的に測る「モノサシ」を作りたい

ではどうやって、日本人の英語でのコミュニケーション能力を向上していけばいいのか――。2人は、国際舞台でビジネスを行っていく上で、どんなレベルの英語でのコミュニケーション能力が求められ、その能力が今どのレベルにあるのかを、客観的に把握できる「モノサシ」が必要ではないかと考えました。「モノサシ」となるテストがあれば、目標にすべき英語でのコミュニケーション能力と、現在の自分の能力との差を、具体的な数値として把握でき、その差を埋めていくための目安や計画が立てやすくなります。

では実際に、そのような「モノサシ」をどのようにして作っていかればいいのか……。そう考えていた北岡に対して、重要なアドバイスをを行ったのが、三枝幸夫(1931～2005年)という人物でした。



三枝幸夫(1931～2005年)

三枝はかつて、北岡とともにTime社に勤めていました。北岡が退職して国際コミュニケーションズを設立すると、三枝も同社に移り、引き続きともに働いていました。三枝は北岡に、「そうした『モノサシ』を作りたいのなら、ETSにテスト開発をお願いするのが良いのではないかと助言したのです。

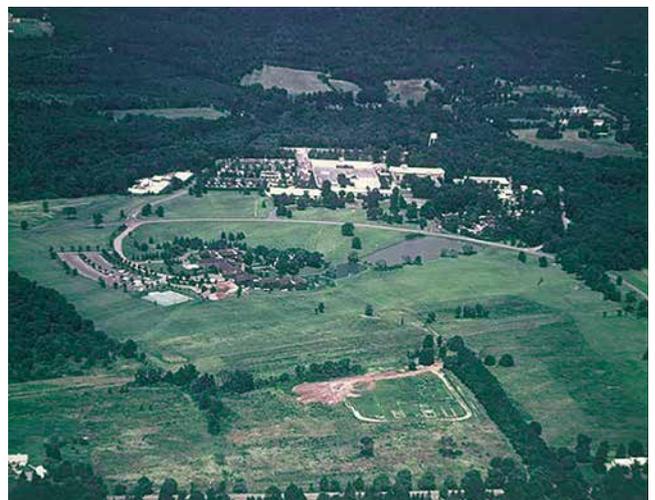
その後三枝は、英語学の研究者として早稲田大学に移り、TOEIC® Programを用いた、英語能力に関する様々な調査・研究に携わりました。

熱意と粘り強さで交渉を成立させる

三枝が北岡に話したETSとは、1947年に設立された、アメリカのニュージャージー州プリンストンに本部を置く、非営利教育団体です。2,500人以上いるスタッフのうち、1,000人以上が、教育学や心理学、統計学や社会学、コンピュータサイエンスなどの専門家です。

ETSの中でも研究開発部門は、テスト開発において様々な実績を残していました。64年には、日本でもおなじみのTOEFL®テストを開発。TOEFL®テストは、主に大学や大学院といった、アカデミックな場面において必要な英語運用能力を測定するテストです。そのほかにもETSでは、GRE(大学院入学共通試験)などの試験を開発してきました。

三枝から助言を受けた北岡は、早速ニュージャージー州プリンストンにあるETSを訪ねます。しかし最初のうちは、交渉のテーブルにつくことすらままなりませんでした。それまでETSでは、個人からテスト開発の依頼を受けたことは一度もありません。ましてや、遠く離れた日本からの依頼です。ETSが



広大な敷地の中に建物が点在する大学のようなたたずまいからETSキャンパスと言われている

消極的になるのはやむを得ないことでした。

当初ETSは、北岡が信頼に足る人物であるかどうかにも不安を抱いていたようです。ただその点については、北岡の以前の職場であるTime社に、ETSが身元照会のため電話をしたところ、同社トップの1人から、「ああ、Kit(北岡の愛称)ね。もちろん知っていますよ。彼は元気ですか」という返事があったことで解消しました。

北岡は挫折することなく、何度もETSを訪ねました。当初ETSは、「英語を母語としない人たちを対象とするテストは、既にTOEFL®テストがあるのだから、新たにテストを作る必要はない」という姿勢をとっていましたが、北岡の言葉に次第に耳を傾けるようになり、77年9月、ようやく正式に交渉がスタートしました。

北岡は交渉の場で、「異なる言語や文化、伝統の中で生きてきた世界中の人たちの間でビジネスを成り立たせるためには、共通の言語として英語を身に付けなければならない。そのために、ビジネスの現場で必要な英語力を測る、世界共通のテストが求められている。TOEFL®テストで培ってきたノウハウを、ビジネスパーソンを対象にしたテスト開発に生かせれば、ETS

は世界に対して多大な貢献を果たすことができる」と訴えかけました。

この北岡の言葉に、ETSのスタッフも強く心を動かされました。テスト開発担当ディレクターだったプロクター・ウッドフォード氏は、「TOEIC® Programは、北岡の熱意と献身的な粘り強さがあったからこそ実現した」と述べていま



プロクター・ウッドフォード氏

す。こうして北岡はETSとの交渉に成功したのです。

一方、国内では、渡辺がテストを実施・運営するための組織作りを奔走していました。渡辺は「このテストは、貿易促進に求められる人材を育成するために必要なものである」という考えから、通商産業省に認可を申請しました。同省も渡辺の主張に賛同し、無事認可を得ることができました。

妥当性・信頼性・公平性のあるテストを追求

北岡との交渉に合意したETSでは、早速新しいテスト、すなわちTOEIC® Programの開発に着手しました。「英語によるコミュニケーション能力を正確に測定し、目的や目標に照らしてどのレベルに位置するか、それぞれに基準を与えることができるテストシステム」というのが、TOEIC® Programのコンセプトになりました。さらに、英語学習の初級者から上級者まで、多様なレベルの受験者の英語力を測定できるものであることや、特定の国や文化に偏らずに、国際共通語としての英語力を

測定できるものであることも条件とされました。

TOEIC® Programは、日常生活やビジネスの現場で必要とされる英語力を測るためのテストです。TOEFL®テストのように、アカデミックな場で必要とされる英語力を測るテストとは、異なるタイプの設問が必要となります。そこでETSは調査団を編成し、ビジネスの現場でどのような英語が使われているのかを調査・分析しました。その結果、次のようなことが分かりました。

- 英語圏以外の人たちが英語を使ってミーティングを行う場合には、アメリカ人同士の会話で話されるようなイディオムや口語表現は使用されない。
- ビジネスシーンで用いられる文章は、論文のようなボリュームのあるものではなく、コンパクトにまとまっており、表現も簡潔で明瞭なものである。
- プレゼンテーションの場面においては、図表が用いられることが多い。

こうした調査・分析結果は、TOEIC® Programの問題形式や構成に、反映されることになりました。

ETSがTOEIC® Programの開発において何より重視したのが、テストの妥当性、信頼性と公平性を確保することでした。妥当性とは、測ろうとしている能力を正確に測定できること、信頼性とは、能力が同じであれば、何度受験しても結果が一定であることを指します。

このうち妥当性については、信頼性が高いほかのテストと相関分析を行い、統計的にも妥当性が高いテストになっているかどうかを分析しました。テストの信頼性については、Equating(スコアの同一化)という手法を採用。テストの設問が異なっても、同等の英語力があれば、スコアも一定になるように設計しました。さらに、国・地域や文化的な違いがあると解答することができないような問題は出題しない、という公平性も追求しました。

TOEIC® Programが、その後多くの人に認められ、就職や転職、昇任・昇格などで参考にされるようになったのは、テスト開発の段階で、妥当性、信頼性と公平性をしっかりと確保したことが大きな要因だと考えられます。

世界中で受験されるようになったTOEIC® Program

ETSがTOEIC® Programの開発を進める一方で、国内でもテスト実施に向けた準備が進行されていました。

79年、渡辺は世界経済情報サービスの中に、TOEIC®運営委員会を設立。委員会は27人の委員で構成され、初代委員長には渡辺自身が就任しました。また後援には、経済団体連合会(現・日本経済団体連合会)や経済同友会、日本貿易振興会(現・日本貿易振興機構)、米国大使館、朝日新聞社など10団体が名を連ねました。

しかし、団体や企業からの支援は得られたものの、運営委員会の活動資金は、決して潤沢ではありませんでした。運営委員会では、後援団体の1つだった朝日新聞社の紙上で広告掲載や、書店店頭での告知、ダイレクトメールの送付や説明会の実施など、限られた資金の中で、できる限りの広報活動を行っていきました。受験地を少しずつ増やし、テストの実施回数を増やすことによって、世の中に広めていけばいいという姿勢でのスタートでした。このようにして、79年12月に、第1回TOEIC® L&R公開テストが開催され、その後、着実に世の中に広がっていったのです。

TOEIC® Programの公開試験は、第1回のときは5都市でしたが、80年には6都市、90年には20都市、2000年には57都市と増えていき、現在では約80都市で実施されています。1981年には、公開テストに加えて、企業や大学などが団体単位で実施する、TOEIC® L&R IPテストも始まりました。

また2001年からは、初・中級英語学習者を対象にしたTOEIC Bridge® L&R公開テスト/IPテストを開始。さらに、これまでTOEIC® Testsはリスニングとリーディングのみでしたが、07年からは、スピーキングとライティング力を測定するTOEIC® S&W公開テストもスタートさせました。これによりTOEIC® Testsは、「聞く」「読む」「話す」「書く」の英語4技能を、総合的に測定できるテストへと進化しました(TOEIC Bridge® Testsに関しては、19年、4技能にリデザイン)。

なおTOEIC® Programの発展に伴い、1986年には国際ビジネスコミュニケーション協会(IIBC)が設立され、以降、当協会が、日本でのTOEIC® Programの実施・運営を担っています。

現在、世界で160カ国の方が受験している、TOEIC® Programは、ビジネスシーンで必要となる英語力を測るための、「世界共通のテスト」となっています。そしてその第一歩は、北岡靖男と渡辺弥栄司という2人の出会いから始まったのです。



TOEIC® Programの変遷

- 1977年** 世界最大のテスト開発機関ETSに、TOEIC® Programの開発を依頼
- 1979年** TOEIC® 運営委員会を設立
第1回TOEIC® L&R公開テストを実施
- 1981年** TOEIC® L&R IPテストがスタート
- 1986年** 国際ビジネスコミュニケーション協会(IIBC)を設立
- 2001年** TOEIC Bridge® L&R公開テスト/IPテストがスタート
- 2006年** 第122回TOEIC® L&R公開テストから、リニューアルしたTOEIC® L&Rがスタート
- 2007年** TOEIC® S&W公開テストがスタート
- 2008年** TOEIC® S&W IPテストがスタート
- 2016年** 第210回TOEIC® L&R公開テストから、出題形式の変更、および各テストの名称を現在の名称に変更
- 2019年** TOEIC Bridge® Testが2技能から4技能へリデザイン(TOEIC Bridge® Testsに変更)



2006年のリニューアル時に行った発表会の様子



メディアでも話題となったTOEIC® Programの誕生(朝日新聞、1979年10月4日)

国際コミュニケーション英語能力テスト

ETS 認定 **TOEIC**

Test of English for International Communication

第1回

- 試験日 1979年12月2日(日)
- 試験会場 札幌/東京/名古屋/大阪/福岡
- 受験料 5,500円

申込受付中 締切:10月31日

受験案内・申込書は主要書店にもあります

財団法人 世界経済情報サービス **TOEIC運営委員会**
 〒100 東京都千代田区永田町2-14-2
 山王グランドビル

(03)581-5663-5

後援
 経済団体連合会 経済同友会 日本青年会議所 日本貿易振興会 日本貿易会
 貿易研修センター 日本在外企業協会 朝日新聞社 朝日イブニングニュース社

第1回TOEIC® L&R公開テストのポスター



松本 一則さん

阪本 郁哉さん

南 奈美さん

北浦 恵子さん

PART 2

IIBC AWARD OF EXCELLENCE 受賞者に聞く 英語学習法とTOEIC® Testsの魅力

特別企画第2弾として、TOEIC® Testsを継続的に受験され、IIBC AWARD OF EXCELLENCE を2020年に見事受賞された4名の方をお招きして、座談会を開催しました。「聞く」「読む」「話す」「書く」の英語4技能をまんべんなく学習され、英語でのコミュニケーションを積極的に行われている皆さんが、どのような英語学習をしているのか、また、TOEIC® Testsのどのような点に魅力を感じているのかなどについて、話していただきました。

日々の仕事の中で必要な生きた英語力

—皆さんは普段から仕事などで、英語を使う機会は多いのでしょうか。

松本▶私は以前、日本の商社に勤務し、現在は転職してグローバルに展開しているプロフェッショナルファームで働いています。商社時代から英語を使う機会はあったのですが、必要性という点では、現在の方が圧倒的に高いですね。何しろ会議の場には、アメリカ人もいればイギリス人もいます。そのほかにもオーストラリア、ニュージーランド、インドなど様々な国の人がいる中で、きちんと英語で発言ができなければ、「一切存在感なし」という状況に置かれますから……。「これはまずい」ということで、数年前から本格的に英語の学習を始めました。

南▶私は地方公務員として働いています。自治体には様々な部署があるので、英語が必要になるかどうかはどの部署に配属されるかによって変わってきますが、私自身は英語力を生かせる部署への配属を希望するようにしています。

これまでですと、教育分野の部署にいたときには国際交流に関する業務で、海外から来られた方への対応に当たっていました。現在は、国際的なスポーツイベントの運営部署で働いているので、英文の資料などを読む機会があります。

阪本▶私は自動車メーカーでエンジニアとして働いています。既に販売している車の中で、不具合を起こしているケースがないかをモニタリングして、問題があれば技術的な改善を行っていくというのが今の主な業務です。

自動車は世界中で販売されていますから、当然現地のエンジニアと英語でコミュニケーションを取らなくてはいけない場面が数多くあります。また私の上司が外国人のため、職場での普段の会話は英語ですし、資料も英語で作ることが多いですね。

北浦▶私はシステムエンジニアとして働いた後に、3年半ほど前、友人と一緒にオンライン英語スクールの会社を立ち上げ、代表を務めています。私自身も受講者の方へのレッスンを担当していますし、トレーナーへの研修にも携わっています。

私は子どもの頃から英語が大好きで、ずっと趣味として学ん

できました。おかげさまで英語外部試験に関する本を出版することもでき、今は趣味が仕事になったという感じですね。

英語力をさび付かせないよう積極的に受験

— TOEIC® Testsの受験歴を教えてください。

阪本▶ TOEIC® L&Rを最初に受験したのは、大学の学部生のときです。大学院入試を受ける際に、TOEIC® L&Rのスコアの提出を求めているところは多いですし、就職活動においても高いスコアを持っていると有利になりますから、「まずはとにかく1回受けてみよう」ということで受験しました。

TOEIC® L&Rを最も頻繁に受験していたのは2年前のことで、おそらく1年で8回程度受けたと思います。当時は英語を使う機会が全くない部署で働いていましたが、英語力は常に磨いておかないとすぐにさび付いてしまうので、自分の英語力を維持するために、TOEIC® L&Rを活用することにしました。今は日常的に英語を使う部署にあり、日々の仕事の中で英語力を鍛えています。

またTOEIC® S&Wに関しては、自分のスピーキング力やライティング力がどんな評価を受けるのか興味があったので、2020年に初めて受験しました。

北浦▶ 私も最初に受験したのは大学生のときです。その頃は別の英語外部試験の受験に情熱を傾けていたのですが、3回連続で不合格になってしまいました。「私には向いていないのかも」と思っていた頃に、初めてTOEIC® L&Rの存在を知って、受けてみることにしました。そのときのスコアは720点でした。それで満足してしまい、その後はしばらく受けなくなりました。

受験を再開したのは12年のこと。TOEIC® S&Wも翌年から受け始めました。私は子どもの頃からテストが大好きでして、今ではTOEIC® L&RもTOEIC® S&Wも、できる限り毎回受けるようにしています。

松本▶ 私が初めてTOEIC® L&Rを受験したのは、今から20年以上前で、商社に入社したときのことで、確か新入社員全員が会社で受験しました。そのときは全く歯が立たなくて、スコアは400点を少し超える程度でした。その後20代の間は会社が実施していたIPテストを年1回ぐらい受験していましたが、30代以降は受けなくなりました。

それが「本気になって受けてみよう」という気持ちになったのは、今の職場に転職して、英語を学習せざるを得ない状況に追い込まれてからです。せっかく学習するのなら「今度のTOEIC® Testsでこのぐらいの点数を取る」という目標があった方がいいと考えたのです。現在はTOEIC® L&RかTOEIC® S&Wのどちらかを毎月必ず受験するようにしています。

南▶ 私も最初は、大学在学中にTOEIC® L&Rを受験しました。交換留学でカナダに1年弱行った後、力試しとして受けてみました。

TOEIC® S&Wを初めて受験したのは、20年1月です。ちょ



IIBC AWARD OF EXCELLENCEとは？

「聞く」「読む」「話す」「書く」の英語4技能をまんべんなく学習され、コミュニケーションツールとして積極的に英語を活用されている受験者の皆さんを応援したいという思いから、2017年よりIIBCが実施している制度。英語4技能を測るTOEIC® Testsの公開テストで、1～12月の間に、下記の基準スコアを取得された受験者の方を、毎年一度表彰している。

基準スコア

TOEIC® L&R	TOEIC® S&W
800点以上(リスニング375点以上かつリーディング425点以上)	スピーキング160点以上かつライティング170点以上

うど育児休業から職場に復帰する直前でした。妊娠中に別の英語外部試験を受けるために、スピーキングとライティングの学習を集中的にしていたので、その力が落ちないうちにTOEIC® S&Wにもチャレンジしてみたいと思って受けることにしたのです。

スコアがぶれないから実力を正確に把握できる

— TOEIC® Testsのどんなところに魅力を感じて、受け続けていらっしゃるのでしょうか。

北浦▶ TOEIC® Testsはスコアがぶれないといいますが、そのときの自分の実力を常に正確に測定してくれます。まぐれで高スコアを取るといったことはありません。だからこそスコアが伸びたときには、「自分の実力が上がったんだ」と素直に喜ぶことができます。

英語学習へのモチベーションを保つことができるのも、TOEIC® Testsのおかげです。システムエンジニアの仕事が忙しかった頃は、試験前になると、平日は朝4時ぐらいに起きて学習してから会社に行き、帰ってからまた学習をして、という生活を送っていました。休日も1日13時間程度学習していました。これはテストがあるからこそ、できることですね。今は、なかなかTOEIC® S&Wのスピーキングのスコアが180点以上にならないので、この壁を突破するために頑張っているところです。

松本▶ TOEIC® Testsで求められている英語力と、仕事で求められる英語力には、かなり強い関連性があると感じています。例えば私の仕事では、大量の英文の資料にざっと目を通し、短い時間で要点をつかむことが求められます。これは、TOEIC® L&Rのリーディングの問題を解くときと、やっていることは全く変わりません。またTOEIC® Testsの試験に出てくる様々な英語表現は、実際にビジネスの現場で、ネイティブスピーカーが作成した資料の中にもよく出てきます。

つまり TOEIC® Tests の学習をすることが、そのまま仕事に必要な英語力を伸ばすことにつながり、仕事で英語を使うことが TOEIC® Tests の学習にもなるのです。そういう意味で TOEIC® Tests は、非常に意義のあるテストだと思います。

南 ▶ TOEIC® Tests を受け続けているのは、私もモチベーション維持のためです。受けるとなると学習しますが、受けないとすると、どうしても英語学習への意欲を維持するのが難しくなりますからね。ほかの方と比べると少ないかもしれませんが、英語力をどれだけ維持できているかをチェックする意味も含めて、年1回は受験するようにしています。

また、試験会場や実施回数が多く、自分が受けたと思ったタイミングで受けられるということも TOEIC® Tests の魅力の1つです。さらに、TOEIC® Tests は社会的な知名度が高いため、自分のスコアを人に話したとき、その価値をすぐに理解してもらえるのも魅力です。

阪本 ▶ 私がなぜ受け続けているのかというと、何ととっても楽しいからです。特に2年前、ほぼ毎月のように受験していた頃

は、完全にゲーム感覚でした。ロールプレイングゲームでいえば、普段の勉強はモンスターを倒しながらレベルを上げていくステージです。そして本番当日は「ボス戦に挑む」という感覚で臨んでいました。ですから学習がつらいと思ったことはないんです。

TOEIC® Tests は可否ではなく、自分の今の実力が5点刻みのスコアで把握できるところも、分かりやすくていいなと感じています。

楽しみながら学ばないと長続きしない

——英語学習ではどんな工夫をされていますか。

南 ▶ リスニングにしてもリーディングにしても、自分が興味のある題材を選ぶようにしています。そうしないと長続きしませんからね。例えばリスニングでは、Podcastを活用して、カンファレンスでのスピーチや英語のラジオドラマの中から、「これは面白そうだな」と思えるものを見つけて聴いています。リーディングも、スマートフォンのニュースアプリを英語版にして、関心がある記事を読んでいます。また、興味のある英語の電子書籍を読むこともあります。

あとリスニングでは、ちょうど今、我が家のテレビが子ども番組に占領されていますが、「少しでも英語を耳にすることができる環境を作りたい」と思い、「きかんしゃトーマス」や「おさるのジョージ」といった海外制作の番組を見るときには、英語設定にして流しています。まだ子どもは小さいのでぼかんとした表情で見っていますが……。

阪本 ▶ 私も英語の学習は楽しみながらするようにしています。アニメが好きなので、日本のアニメの英語吹き替え版を見ながら、英語の台詞を1文1文書き出しています。「日本語のこの台詞が、英語ではこんなふう翻訳されるんだ」という気付きがあって楽しいですね。「この英語表現は今度自分でも使ってみたいな」というものも多く見付かります。

あとは仕事や日常生活の中でよく使う表現を、片っ端から英語に訳して書き出しています。海外の方と英語で話すときに言葉に詰まってしまうのは、適切な英語表現がとっさに浮かんでこないからだと思うんです。日本語でもよく使う表現を一度英語に置き換えるという作業をして頭に入れておけば、実際の場面でもすらすらと言葉が出てくるようになるのではないかと考えてのことです。

北浦 ▶ 私のメインの学習法は例文暗唱です。1週間で200個ぐらいの例文を覚えることを目標に、1つの例文をすらすらと言えるようになるまで、何十回、何百回と繰り返しています。

暗唱に使う例文は、私は海外ドラマが大好きなので、その台詞の中から抜き出してくることが多いです。そういう意味では、私も楽しみながら英語の学習をしています。

海外ドラマは本当に好きで、1日5時間でも6時間でもずっと見ていられます。聞き取れる台詞の量が少しずつ増えていくのが一番うれしいですね。初めて字幕なしで最初から最後まで



北浦 恵子さん

- TOEIC® L&R
最高得点 990点
受験回数 70回程度
- TOEIC® S&W
最高得点 スピーキング 180点
ライティング 200点
受験回数 30回



阪本 郁哉さん

- TOEIC® L&R
最高得点 900点
受験回数 40回
- TOEIC® S&W
最高得点 スピーキング 170点
ライティング 190点
受験回数 2回

ドラマを見られたときの喜びは、何とも言えないものでした。

松本▶スピーキングの学習では毎日25分間、オンライン英会話をやっています。この1年半、インフルエンザにかかったときも含めて、1日も欠かしたことはありません。

ヒアリングの学習はPodcastが中心です。私が苦手としているのは、オーストラリアやニュージーランドの方の英語を聴き取ること。それなのに私の仕事相手は、なぜかオーストラリア人やニュージーランド人が多い……。そこで彼らにオススメのPodcastを教えてもらって、それを聴いています。私の場合、色々な国の方と仕事をする機会が多いので、彼らの発音をきちんと聴き取り、会話できるようになることは大きな喜びですね。

——英語学習をしていて、なかなか成績が伸びず壁に突き当たったときには、どのようにして乗り越えられましたか。

北浦▶私は、一緒に学習している仲間の存在が助けになっています。今は、仲間とは週1回オンラインで、スピーキングの練習を一緒にしています。先日、TOEIC® S&Wのテストで思うように解答できず、電車の中で泣きながら家まで帰ったことがあったのですが、そんなときでも励まし合っている仲間がいるから、なんとか立ち直って頑張ることができました。

阪本▶私の場合は、うまくいかないときには一旦英語の学習から離れることが多いですね。何事も1つのことに集中しすぎると、そのことを客観的に見られなくなるものです。逆にほかのことをやっているうちに、「あの学習は、もっとこんなふうに行った方がいいな」と気付くことがあります。

南▶成績が上がらないということは、自分の学習の仕方が間違っている可能性が高いと思います。そのようなとき私はインターネットなどでほかの方の英語学習法を調べ、「このやり方は良さそうだな。自分でもできそうだな」というものを見付けて、取り入れるようにしています。

松本▶英語の学習に限らず、スポーツでも何でもある一定のレベルのところまで行くと、そこからしばらく成長が止まる時期があるものです。けれども修正を加えながらコツコツと努力を重ねていけば、いずれ必ず壁を突破できる時が来るというのは、皆さんもこれまでの人生の中で経験があると思うんですね。「大丈夫。いつか突破できる時が来る」と信じて、地道に取り組んでいくことが大切なのではないかと思います。

英語の習得は向き不向きではなく継続が大事

——最後に「IIBC AWARD OF EXCELLENCE」の受賞を目指すなど、英語学習に励んでいる方々へのメッセージをお願いします。

松本▶私も初めてTOEIC® L&Rを受験したときは、スコアは400点を少し超えたぐらいという惨たんたる結果でした。それでもAWARDを受賞できるまで来たわけですから、皆さんにできないはずがありません。今はオンラインで英語を話したり聞いたりすることができるなど、英語を学ぶ環境も整っ

松本 一則さん

- TOEIC® L&R
最高得点 955点
受験回数 20回
- TOEIC® S&W
最高得点 スピーキング170点
ライティング200点
受験回数 10回程度



南 奈美さん

- TOEIC® L&R
最高得点 945点
受験回数 20回程度
- TOEIC® S&W
最高得点 スピーキング170点
ライティング180点
受験回数 1回



てきています。目標を実現することはきっと可能です。

南▶英語学習は「大変だな、つらいな」と思うと長続きしません。自分にとって好きなこと、興味があることを題材に選び、楽しみながら英語の学習を続けていく方法を見付け出してください。一緒に頑張りましょう。

阪本▶言語学習の基本は継続することです。TOEIC® Testsを定期的に受け、今の自分に何が足りないのか、どうやって補強していけばいいかを客観的に考えた上で、日々の英語学習に取り組んでいく。これを続けていけば、きっと道は開けてくるはずですよ。

北浦▶私も継続が大事だと思います。うまくいかないときには、「自分には語学の学習は向いていないんじゃないか」と思うことがあるでしょう。でも語学を習得できるかどうかは、向き不向きではなく、やめないことです。皆さんも英語学習の仲間を見付け、苦しいときには仲間の助けを借りながら、英語学習を続けていってくださればと思います。

——本日はありがとうございました。

英語はいかにして世界の共通語になったのか

特別企画第3弾として、世界には言語が約7,000あると言われる中、その1つにすぎない英語が、なぜ世界の共通語になっていったのかをご紹介します。英語史や歴史言語学などを専門に研究され、『英語の「なぜ？」に答える はじめての英語史』(研究社)の著者である、慶應義塾大学文学部教授 堀田隆一氏に、英語が誕生してから現在に至るまでの歴史と、これからの英語の潮流について話を伺いました。

ネイティブスピーカーでも読めない1000年前の英語

これから皆さんに英語の歴史をお話するにあたり、まず、下記の文章をご覧ください。何語で書かれているかお分かりになりますか？

“Cume ðin rice. Sy ðin wylla on eorðan swaswa on heofonum.”

答えは、約1000年前に書かれた英語の文章(『聖書』の「主の祈り」の一文)です。今の英語と同じ言語であるとは、全く想像できないと思います。ちなみに現代英語で表現すると

“Thy kingdom come, Thy will be done, On earth as it is in heaven.”

といった意味合いになります。



どのような言語であっても、時代を経るとともに変化していきますが、英語はとりわけその変化が激しい言語です。多くの日本人は、1000年前の日本語の文章、例えば『源氏物語』にしても『枕草子』にしても、古語辞典などの力を借りれば何とか読むことができますが、英語においては、ほとんどの英語ネイティブスピーカーの方が、1000年前の文章を読みこなすことができないくらい変化しているのです。

ではなぜ、英語はこれほどまでに著しく変わっていったのでしょうか——。今に至るまでの英語の歩みを見ていくことで、その理由をひも解いていきます。

449年に誕生した英語にヴァイキングの言語が入り込む

まず、紀元前4000年ぐらいにまで話は遡りますが、現在のウクライナの辺りに、ある集団が共通の言語を話していました。この言語は、現在、インド・ヨーロッパ祖語(印欧祖語)と呼ばれています。インド・ヨーロッパ祖語は数千年かけ、西はヨーロッパ、東はインドへと広がっていき、それぞれの地域で変化し、枝分かれしていきました。その枝分かれした1つにゲルマン語派があります。このゲルマン語派がさらに枝分かれしていったのが、現在の英語やドイツ語、オランダ語などです。

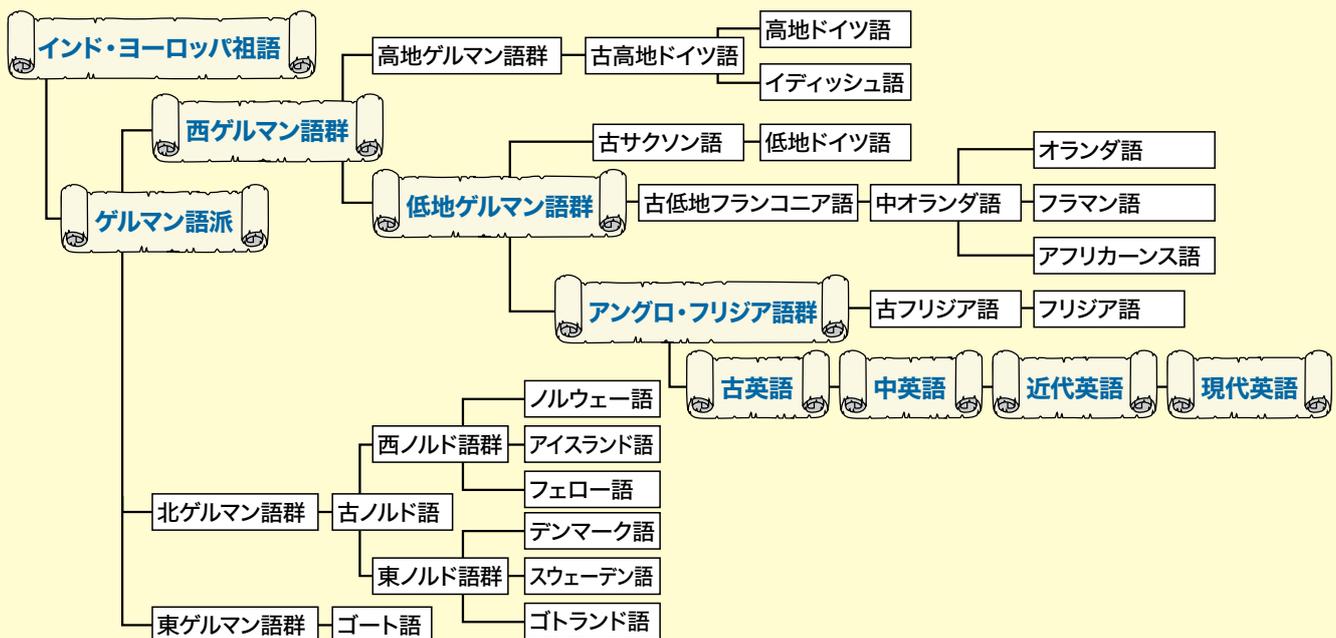
ゲルマン語派のうち、後に英語と呼ばれることになる言語を話していたのが、ドイツ北部などに住んでいたアングロ・サクソン人でした。4世紀末頃よりゲルマン人の大移動が始まると、アングロ・サクソン人たちも、449年、イギリスのブリテン島に押し寄せ征服しました。英語史では、この449年を「英語の始まり」としています。

当時の英語は、同じゲルマン語派の言語であるドイツ語と非常によく似ていました。ドイツ語を習った方が皆さん苦勞される男性・女性・中性名詞が、この頃の英語には存在していましたが、不規則動詞も今の英語の6倍程度ありました。英語史では当時の英語のことを「古英語」と呼んでいます。古英語の時代は、449年から1100年ぐらいまで続きました。

この古英語の時代にも英語に変化が生じますが、その主な要因となったのが、8世紀後半から始まった、北欧に住むヴァイキングのブリテン島への侵入です。当時ヴァイキングが使っていたのは、古ノルド語という言語。古英語も古ノルド語も同じゲルマン語派の言語でしたので、アングロ・サクソン人もヴァイキングも、かなりの部分でお互いが言っていることを理解することができました。しかし語尾が異なっていたため、微妙なニュアンスになると意思疎通に齟齬が生じました。「誤解が起きないように、複雑な語尾は削ぎ落としてしまおう。その方が共通の言語で話せる」ということで、英語の語法に簡略化の動きが生じたのです。

またこの時期には、たくさんの古ノルド語が英語に入り込んでいきました。例えばthey、she、take、getといった英語の基本語彙も、実は古ノルド語が起源です。アングロ・サクソン人たちは、これまで使っていたtheyやsheに該当する古英語の単語を捨てて、古ノルド語由来の単語に置き換えていったの

インド・ヨーロッパ祖語の分岐



です。一方古ノルド語も、英語の影響を受けて変化しました。

ノルマン朝の誕生によりフランス語を大量に借用

さらに1100年以降、もっと大きな変化が英語に生じますが、英語史では、1100年から1500年ぐらいまでの英語のことを、「中英語」と名付けています。

この時期の大きな変化は、北フランスに領土を持っていたノルマン人のウィリアムが、1066年にイギリスを征服して、ノルマン朝を開いたことに端を発しました。ノルマン人はフランス語を話していたため、イギリスの公用語もフランス語になったのです。公式な文書は全てフランス語で書かれるようになり、書き言葉としての英語は、この時期にほぼ消滅しました。一方、話し言葉としての英語は、相変わらず庶民の間で使われ続けました。

一般的に、書き言葉は変化を嫌い、書き手に対して標準的な文法や綴りで記述することを求めます。また書き言葉が一定の権威を持っている社会では、話し言葉も書き言葉のルールに縛られ、急激に変化することはありません。

ところがこの時期のイギリスでは、書き言葉としての英語がなくなったことにより、話し言葉としての英語は、かなり自由な使い方が許されるようになりました。そのような中で生じたのが、9世紀頃から始まっていた語法の簡略化のさらなる進行でした。英語から男性・女性・中性名詞がなくなったのも、不規則動詞の数が減ったのも、この中英語の時代です。

中英語の時代に生じたもう1つの大きな現象が、フランス語が公用語とされる中、この時期だけでも、約1万語という大量のフランス語が英語に借用されていたことです。フランス語は、系統的にはイタリック語派に属します。これにより英語

は、少なくとも語彙において、純粋なゲルマン語派の言語とは呼べなくなりました。

このような現象が起こったのは、水が高いところから低いところへと流れていくように、言語も政治力や経済力、軍事力などが強い国から弱い国へと流れていくためです。例えば、古代・中世の頃の中国語と日本語の関係を見ても、日本語は中国語から多くの言語を借用しましたが、その逆はありませんでした。これは、当時の中国と日本の力関係を反映したものです。同様に、当時のイギリスもヨーロッパにおいては力が弱かったため、強国であるフランスの言語を受け入れざるを得なかったのです。

もし当時のイギリスがもう少し強い国で、ノルマン人に征服されることがなかったら、英語は今とはかなり異なった発展の仕方をしていただろうでしょう。フランス語の借用数はそれほど多くなく、現在でも、男性・女性・中性名詞が存在する言語になっていたかもしれません。

イギリスが世界の覇権国となり英語も世界の言語になった

ノルマン朝は1154年に断絶しますが、次のプランタジネット朝もやはり王はフランスからやってきたため、フランス語が公用語とされる状況はしばらく続きました。しかし次第にフランスの影響下から離れていく中、1399年には、ノルマン朝以降初めて英語を母語とするヘンリー4世が即位します。さらに1489年には、議会でもフランス語が使われなくなりました。英語は再び、イギリスにおける国語としての地位を取り戻したのです。英語史では、英語復興後の1500年から1900年ぐらいまでを、「近代英語」の時代としています。

この近代英語期前半の16世紀、イギリスでは南ヨーロッパ

同時並行で進んでいく多様化と標準化の動き

から伝わってきたルネサンスのブームが最高潮を迎えていました。イギリスの知識人たちはこそって、ギリシアやローマの古典文化に夢中になるとともに、ラテン語への関心を高め、この時期に約1万2,000語のラテン語が英語に流れ込んでいきました。そのため英語は、ますます借用語だらけになってしまったのです。

ただしこのラテン語ブーム以降は、外国語から借用する数は次第に減っていきます。むしろ英語は、借用する立場から、貸し出す立場へと変わっていきました。その理由は、イギリスの国際的地位の向上です。

15世紀、ヨーロッパでは大航海時代が始まり、まず覇権を握ったのはポルトガルとスペイン、次がオランダで、彼らはアジアや中南米の地域を次々と植民地化しました。

一方イギリスは、1607年に北アメリカのジェームズタウンに初めて植民地を獲得します。鉱山資源が豊富なラテンアメリカは既にスペインなどに押さえられていたため、やむを得ず北アメリカに進出したのですが、まさかアメリカが、後にイギリスに代わり世界の覇権を担う国になるうとは、このときは夢にも思わなかったことでしょう。そして17世紀後半、イギリスがついに世界のトップランナーに躍り出たのです。

イギリスは世界進出を加速させ、最盛期には世界の陸地と人口の約4分の1を支配しました。イギリスから北アメリカやオーストラリアなどに入植した人たちは当然英語を使い、植民地にした地域に古くから住んでいた人たちにも、イギリスは英語を使用させました。

また当時のイギリスは、世界で初めて産業革命を成し遂げるなど、最先端の技術力や経済力などを有していました。そのため英語を母語としない人たちも、イギリスから知識や技術を学ぶため、あるいは貿易によって利益を得るために、進んで英語を身に付けるようになりました。

こうして英語は世界中に広がり、イギリスの国語ですらなかった時代と比べ、見違えるような変化を遂げたのです。

その後イギリスは、20世紀初頭の第1次世界大戦で勝利を収めましたが、次第に国力が衰退していきます。代わって覇権を握ったのはアメリカでした。英語にとって幸運だったのは、アメリカも英語を母語とする国だったことです。覇権国はイギリスからアメリカへと移りましたが、英語自体は変わらず、世界の言語の盟主の座に君臨し続けることになりました。英語史では、政治力や経済力、軍事力などの中心が、イギリスからアメリカへと移った1900年以降を、「現代英語」の時代と位置付けています。

世界は、特に20世紀後半以降、交通や通信の発達などによって一気に狭くなり、世界史上例を見ないほどに、国境を越えた経済活動や文化交流が、盛んに行われるようになりました。その際、円滑にコミュニケーションを行うためには、共通の言語が必要になります。そのため英語は、ますます世界の共通語としての地位を高めていきました。

これまで見てきた英語の歴史からも分かるように、英語はなぜ世界の共通語になったのかという疑問に対する答えは、17世紀後半以降、世界の覇権を握ってきたのが英語を母語とするイギリスとアメリカだったから、ということになります。もし違う国が覇権国だったら、私たちは今頃英語ではなく、違う言語を一生懸命学んでいたかもしれません。

これは見方を変えれば、今後、もしアメリカに代わって違う言語を母語とする国が覇権国となった場合、英語も盟主の座を失う可能性があるということです。信じがたいことかもしれませんが、中世のヨーロッパにおいてラテン語が世界の共通語の役割を果たしていた頃、当時の人たちは、まさかラテン語が国際的な地位を失うことになるとは想像すらしなかったと思います。これと同じようなことが英語にも十分起こり得るのです。

とはいえ、今のところ、英語の国際的な地位が低下しそうな気配は全くありません。現在、世界人口のうち、およそ4人に1人が、英語を使ってコミュニケーションをとることができると言われており、世界史上これだけの話者数を獲得した言語はほかにありませんでした。

しかも英語を使うことができる人の数は、年々増加傾向にあります。研究者の中には、「2050年には、世界の人たちの2人に1人が、英語でコミュニケーションをとることができるようになっていく」と予測する人もいるほどです。遠い将来のことは分かりませんが、少なくともこの先数十年ぐらゐの間は、英語が世界最大勢力の言語であるという状況には、変わりなさそうです。

そのような中、私は今後の英語の潮流として、大きく2つの動きが進行するのではないかと考えています。1つは世界各地で多様な英語が生まれ、発展していくことです。

イギリスの植民地だったアフリカやアジア、カリブ海の国々は、当時イギリスから、英語の使用を強制されました。そのため彼らの中には、英語を敵対視する思いが根強くあります。しかし彼らは、イギリスから独立した後も、英語を使い続けました。これらの国の多くは、異なる言語を用いる多民族で構成されており、ある民族の言語を公用語として採用してしまうと、違う民族の反発を生み、国が分断されてしまう可能性があります。英語であれば分断の心配がないため、英語に対して複雑な思いを抱きながらも、英語を使い続けるという道を選択したのです。

そしてこれらの国々では、語彙や文法、発音などに変更を加えて、独自の英語を作り上げるといった現象が生じており、実際に、イギリス英語やアメリカ英語とは異なる“自国の英語”の辞書を出版することで、独自性をアピールしようとする動きが起こっています。

だからといって、各地で独自の英語が生まれ、多様化が進みすぎてしまうと、世界の共通語としての英語の利便性に支障をきたします。そこで世界の人たちと円滑にコミュニケーション

をとるために、標準的な英語をしっかりとマスターしようとする動きも、一方で進んでいくと思われます。これが、私が考える2つ目の動きです。

つまり英語は、今後多様化しながら、同時に標準的な英語も強く求められていくことになるのです。

私たち日本人は幸運なことに、旧植民地の国々の人たちとは異なり、英語に対してアンビバレントな思いを抱かずに済みます。そのため、まずは標準的な英語を身に付けた上で、もし必

要であれば、多様化した各地域の英語も学ぶようにするといいいのではないのでしょうか。各地域の簡単な言葉だけでも覚えておくと、現地の人たちとの心理的な距離を縮めることができます。

以上のように、英語の歴史を学ぶことで見えてくるのは、英語は常に変化してきたし、これからも変化し続けるだろうということです。そういう意味においても、変化に敏感になりつつ、かつその変化を楽しみながら英語学習に取り組んでいくことが、今後大切になってくるのではないかと考えています。

英語の変遷

年代	時代区分	主な社会の出来事	英語の変化		
紀元前		ゲルマン語派が北ヨーロッパやドイツ方面に展開			
紀元449	古英語	アングロ・サクソン人がブリテン島を征服			
500		キリスト教の布教	キリスト教の伝来に伴うローマン・アルファベットの導入		
600			キリスト教の浸透を通じて、ラテン語(約450語)が英語に流入し始める		
700		初期古英語	古ノルド語(約2,000語)が英語に流入し始める		
800					
900		後期古英語	ヴァイキングが侵入・定住		
1000	ノルマン征服		フランス語が英語に流入し始める(最終的に約1万語が流入)		
1100	中英語	初期中英語	フランス語が書き言葉の標準となり、英語の書き言葉の伝統が途切れる	専門的なラテン語も引き続き英語に流入	
1200			自由闊達な言語変化が生じる		
1300		後期中英語	英語文学が花開く		英語の地位がイギリスで復活し、綴字の標準化の兆しが現れる
1400			活版印刷が登場		
1500	近代英語	初期近代英語	イギリスのルネサンス	ラテン語(約1万2,000語)が英語に流入。フランス語、スペイン語、ポルトガル語などからの借用も増加	
1600				現代的な標準綴字の原型が定まる	
1700		後期近代英語	イギリスが世界的に影響力を持つ	他言語からの借用が減少。英語が世界の多言語に対して供給する側になる	
1800				サムエル・ジョンソンの辞書の出版により標準綴字が固定化 アメリカ綴字の標準化が進められ、単語における英米の差が多少発生	
1900	現代英語	アメリカの国際的な影響力が強まる			
2000					



英語がもたらした私のターニングポイント 第12回

写真提供 / UNDRR

身に付けた英語力で 国際社会にもう一度貢献したい

国連事務総長特別代表（防災担当）と国連防災機関長を兼務し、
国際社会を舞台に活躍する水鳥真美さん。

海外で仕事をする中、日頃から自分の意見を躊躇なく言える習慣を身に付けることが、
英語でのコミュニケーションにおいて大切だと気付いたそうです。

●国連事務総長特別代表（防災担当）兼
国連防災機関長

水鳥真美さん

Profile

みづとり・まみ

国連事務総長特別代表として、国連防災機関（UNDRR）のトップも務め、防災、気候変動、持続可能な開発アジェンダの間の戦略・実務面での一貫性、および国連事務総長の予防アジェンダ、人道アクションとの関連性を確保する責務を担う。UNDRRの役割は、各国や様々なステークホルダーによる「仙台防災枠組2015-2030」実施の推進・支援である。2018年3月より現職。それ以前は、外務省で総合外交政策局安全保障政策課長、在英日本大使館公使・広報文化センター所長などの要職を歴任後、英国のセインズベリー日本藝術研究所統括役所長を務めた。一橋大学卒業、スペイン外交官学校で国際関係ディプロマ取得。

● 英語の勉強を続ける中で芽生えた 国際社会の役に立ちたいという思い

父親の仕事の関係で、4歳から7歳までアメリカに住んでいました。短い期間ですが、子どもは適応力があるので、日常会話程度であれば英語もすぐに話せるようになりました。とはいえ、自分の納得いく水準できちんと英語によるコミュニケーションができるようになるのはずっと後のことです。

日本へ戻ってからも、個人レッスンを受けたり、英語の本を読んだりして、英語の勉強は続けました。特に私が通っていた中学・高等学校が英語教育にとっても熱心であったこともあり、その頃から漠然と、国際社会と関連のある仕事がしたいと思い始め、大学卒業後、外務省に入省しました。当時はまだ男女雇

用機会均等法も施行されておらず、就職において女性は非常に不利な時代で、男女平等に働くことができるのは、外資系が政府の仕事しかなかったというのも大きな理由でした。

入省後すぐに、スペインの外交官学校に留学し、スペイン語圏のメキシコに赴任しました。その後はしばらく日本国内の勤務で、英語を使う機会は意外とありませんでした。英語圏の国で勤務したのは、入省から12年経った1995年で、赴任先はアメリカ（ワシントンD.C.）の日本大使館。大使館では情報収集が大切なミッションのため、現地で多くの人と会い話をしました。英語が本当に使えるようになったのはその時期からだと思います。やはり語学は、使ってこそ身に付くものです。

外務省では、何度か通訳をする機会もありました。通訳に

は、発言の内容を的確に伝える正確さが求められます。英語がいくら流暢でも、自分の母語での語学力や理解力の基礎がなければ通訳は務まりません。この場面ではどういう言葉を使うのが適切か、それを英語あるいは日本語に置き換えると、どんな表現になるのかなど、瞬時に考え対応しなければならないのです。単なる語彙力ではなく、言葉のニュアンスをくみ取る感受性を身に付けることが重要だとひしひしと感じました。

自分の伝えたいことを

言葉で表現することが大事

2010年、50代になった私は、結婚を機に長年勤めた外務省を辞め、渡英しました。生涯で1つのキャリアを極めるのもいいけれど、まだ仕事ができるうちに新しい世界に飛び込んでみるのも面白いと思ったのです。イギリスではご縁があり、セインズベリー日本藝術研究所の統括役所長を務めました。

同研究所は、日本の文化芸術を客観的に分析研究する機関です。日本人はともすると、日本には自分たちにしか分からない特異な文化があると考えがちです。しかし、一歩外から見ると、日本文化は孤立したものではなく、他国の文化と様々な共通性があり、互いに深く関係しながら形成されていることが分かります。こうした視点は、国際社会の中で日本文化への理解や興味を深めていくためにも大切だと思います。

イギリスに来てからも、仕事では英語でのコミュニケーションにおいて特に困ることはありませんでした。仕事の場合、こちらが何を言いたいのか、相手が何を言ってくるのかを想定して準備することができます。ある意味、型にはまった英語なのです。それよりもむしろ、私が英語の表現力について深く考えさせられたのは、プライベートでの日常会話でした。

私の夫はイギリス国籍を持つユダヤ人ですが、彼の親戚はよくしゃべる人が多く、みんなが集まると3、4人がワーツと一斉に話し始め、思わず圧倒されてしまいます。それで黙っていると、誰も私に興味を示さず、存在すら認めてくれません。そのとき、夫に言われたのが、“You have to have your own story.” 自分の中に、人に伝えたい話題を持っていなければだめだと。立派な話である必要はなく、日常の些細な出来事や自分の考えでいい。それを言葉にして表現することで、初めて相手は関心を持ち、コミュニケーションが生まれるということです。外国語を話すときに最も重要なのは語学力よりも、話す中身なのだと思われて改められました。

何も言わずに後悔するより

何かを言って失敗する方が得るものは多い

仕事から引退する前に、最後にもう一度、国際社会に何かしらの貢献がしたいという思いがあり、日本政府の推薦を受けて、18年に国連事務総長特別代表に就任しました。現在、国連の防災担当トップとして、防災・減災に関する政策支援、啓発活動、国際的な指針作りなどを行っています。

国連の仕事は全て英語です。私もこれまで、英語でのコミュ



アントニオ・グテーレス国連事務総長(写真右)と水鳥さん
写真提供/ UNDRR



2018年アフリカ・アラブ地域防災プラットフォーム会合にて
写真提供/ UNDRR

ニケーションは十分に経験してきたつもりでしたが、困ったのはライティングでした。外務省在籍中は、英語で長い文章を書く機会はそれほどありませんでした。また、日本語でも同じですが、Eメール1つとっても難しく、書き方の微妙な違いで与える印象がまるで異なってしまいます。そうした表現力は、日々やり取りを繰り返す中で学ぶしかありませんでした。おかげで今は、ようやく英語で書くことにも自信が持てるようになりました。

私の仕事の中心は啓発活動のため、スピーチをしたり、メディアのインタビューを受けたりすることが多いのですが、これも非常に勉強になっています。例えば、スピーチには原稿がありますが、そこに説得力を持たせて話せるようになるためには、やはり何度も場数を踏むしかありません。もちろん何事にも準備は必要ですが、自分で十分準備できたと納得したら、後はあまり心配せずにやってみるという潔さも必要なのです。

また、これまでの仕事を通して実感しているのは、日頃から自分の意見を躊躇なく言える習慣を身に付けておくことの大切さです。日本の教育はどちらかというと減点主義のため、こんなことを言ったら恥ずかしいとか、間違っているのではないかと考え、発言を控えてしまう人が多い。でも、何も言わずに後悔するより、何かを言って失敗した方が、得るものは多いと思います。とにかく自分の意見を言うこと、それが英語でのコミュニケーション能力を高めるために不可欠な一歩です。

今、コロナ禍の中で、一人ひとりの世界がどんどん小さくなっています。そういう時期だからこそ、英語を身に付け、世界中の異なる文化や価値観を持つ人たちとコミュニケーションを図り、多様性を肌で感じる事が、今後ますます重要になってくると思います。特に若い方たちには、広い視野を持ち、積極的に国際社会で活躍してほしいと願っています。

在住外国人の妊娠・出産・育児を 産官学連携で語学面から支援

母子健康手帳の副読本を 英語で作成し外国人家族をサポート

在住外国人人数が増加傾向にある千葉県東金市では、言葉が障壁となり、市の支援を十分に受けることができない恐れのある外国人を、サポートする環境作りが急がれています。中でも、外国人の妊娠届出者数の増加が顕著であったことから、東金市、医療通訳事業などを手がけるメディフォン株式会社、城西国際大学が産官学で連携し、妊娠・出産・育児に関する保健指導や、行政手続きなどの支援を実施しています。

支援の主な内容は、以下の3点です。

- ①外国人向けの母子健康手帳の副読本「外国人のための東金市子育てガイドブック」(イラストを添え、やさしい英語・やさしい日本語で解説)を作成し、2021年3月末に発行する
- ②外国人家族およびそのケアを担う保健師の困りごとを聞き取り、その結果を地域の保健医療サービス・教育・研究に反映する
- ③副読本に掲載した英文や単語を、メディフォン社の機械翻訳アプリシステムに反映し、外国人とのコミュニケーションに利用する

このような連携が実現したのは、18年、同大学看護学部生のグループが、国際学生会議において発表を英語でする際、メディフォン社に対し、通訳などの確認依頼を行ったことに端を発しています。その後、20年度より市が同社の機械翻訳アプリを導入したことから、三者の連携へとつながりました。

国際大学である強みを生かし やさしい英語とやさしい日本語に翻訳する

母子健康手帳の副読本作成に関しては、城西国際大学が中心となり実施。東金市における助成金などの制度に関する部分の

翻訳と、乳児から6歳までに行うワクチン接種のスケジュール表を英語で作成しました。「副読本の作成に先駆けて行った、保健師への聞き取りから、特に外国人家族に伝えるのに苦慮しているのが制度の部分だと知り、その翻訳から始めることになりました」と、同大学地域連携推進センター所長で看護学部教授の井上



城西国際大学地域連携推進センター所長、看護学部教授の井上 映子氏

映子氏は語ります。

制度の翻訳に当たり、まず書かれている日本語自体を、国際人文学部の日本語教員がやさしい日本語に置き換えました。この際、保健師や福祉総合学部・看護学部の教員が、内容の理解に誤り

がないかを並行して確認。その上で、看護学部の母子保健を専門とする教員が、やさしい日本語を英語に翻訳しました。最後に、語学教育センターのネイティブスピーカーの教員が確認し、精度の高い翻訳文を作り上げました。

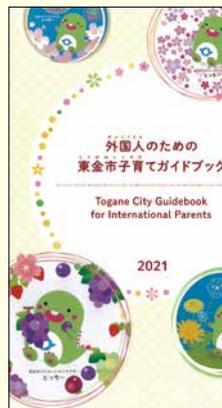
一方、ワクチン接種のスケジュール表に関しては、福祉総合学部の学生が参加し作成。学生たちは、東金市の保健師や、日本で子育て中の外国人の講演を聞き、多文化共生社会における子育て支援の先行事例を調べ、自分たちにできる支援を検討した結果、ワクチン接種スケジュールを、分かりやすい日英併記の一覧表にまとめました。

今後の取り組みについて井上氏は、「保健師と外国人の会話の音声を集めて、頻出フレーズをやさしい英語・やさしい日本語に置き換え、機械翻訳に反映したいと思っています。また、より広域の自治体と連携して、外国人の子どもたちが、各地域で健やかに成長できる環境づくりを目指し、地域の国際大学としてできることを考えていきたいです」と語っていました。

外国人家族を支援する産官学連携の取り組みを契機に、同大学の取り組みは、更なる深化を見せようとしています。



ワクチン接種のスケジュール表作成に取り組み、福祉総合学部の学生たち



母子健康手帳の副読本「外国人のための東金市子育てガイドブック」



■ JACET60 周年記念イベント

大学英語教育の改善に寄与する JACET のイベントに協賛

2021年8月25日～29日に「JACET60周年記念ウィーク」として、第48回サマーセミナー、第60回国際大会が行われました。IIBCは、JACETの「英語教育の改善と発展に寄与する」という趣旨に賛同し、本イベントに特別賛助会員として協賛しました。この度、JACET会長の玉川大学教授 小田眞幸氏より、これからの英語教育に対する思いを寄稿していただきましたので、ご紹介します。

Reflection and Reconnection : 大学英語教育の今後の役割

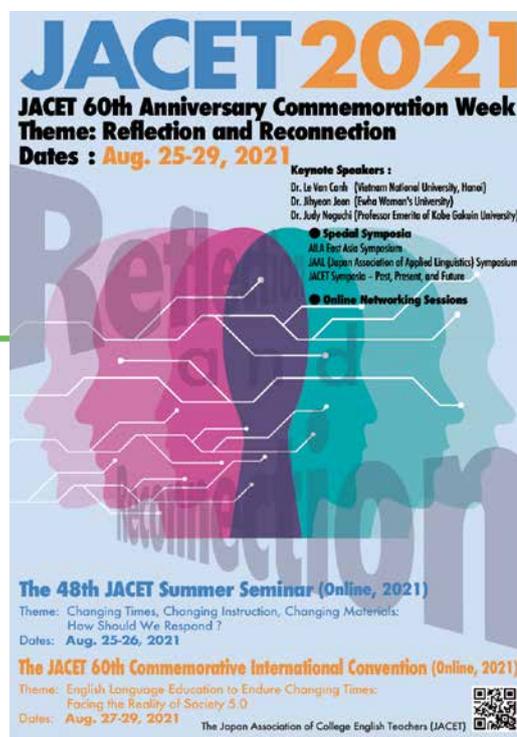
大学英語教育学会 (JACET) 会長
玉川大学教授
小田眞幸氏



大学英語教育学会 (JACET) が1962年に設立され間もなく60年を迎える。それに先立ち今年の8月には60周年記念ウィークとして第48回サマーセミナーおよび第60回国際大会が行われた。記念ウィーク

のテーマはReflection and Reconnection、すなわち大学英語教育の60年を振り返り、さらに新たなつながりを見付けていくという意味である。この記念ウィークは大学英語教育の60年を振り返るイベントとして数年前から計画されていたが、実施をあと1年に控えた昨年からの新型コロナウイルスの世界的な感染拡大はイベントの対面開催をオンライン開催に変更せざるを得ない状況にしてしまっただけでなく、大学における英語教育、さらには教育全般にわたりこれまでのアプローチでは対応できないいくつもの難題を私たちに投げかけた。

大学での英語教育の基本となるものが対面授業であることは長い間当たり前と考えられていた。そしてコロナ禍では仕方なしにオンライン授業が行われ、教える側も学ぶものも、当初は「仮のもの、だから「不完全」であるという思いがあったようだ。そして双方から「今までと違う」ことによる不安と不満の声が聞かれた。しかしコロナ後の英語



「JACET60周年記念ウィーク」ポスター

教育が以前の形に戻ると思っている人はおそらくいないだろう。

60年間の技術の進歩は目覚ましく、英語の音声教材はカセットテープからCD、音声ファイル、さらにネットワークのストリーミングへ、またビデオカセットで提示していた映像は、DVD、さらに動画配信となった。スマホが普及した今日、授業中「携帯の電源を切りなさい」と言っていた時代さえ一昔前のように思えるようになり、スマホを利用した学習法の議論も盛んになってきた。こういったテクノロジーの進歩に取り残されないよう、私たちは常時、Reflection (振り返り) を行って英語教育に還元していく必要がある。

テクノロジーと同様にコミュニケーションにおける言語、そしてその1つとして英語の位置付けも60年間で変化を続けてきた。英語が国際コミュニケーションの様々な場面での共通語となった今、ネイティブ・スピーカーの英語を目標とすることはもちろんのこと、「英語さえできれば何とかなる」という考え方も時代遅れになりつつある。大学の英語教育に携わる私たちも、Reconnection、すなわち大学以外の教育現場そして英語以外の言語、さらにこれまで接点のなかった様々な分野と積極的に連携して社会に貢献をしなければならない。

皆さんの中で、英語の読み書きはある程度自信があるのに、リスニングには全く自信がないと感じる方、多くありませんか？

ここでは、DVDでリスニング力が飛躍的に伸びるといふ事実を紹介します。学術的にも多くの成果が報告されています(参考文献ご参照)。本学でもこの方法で、TOEIC® Programなどの点数が飛躍的に伸びたといううれしい知らせを受けています。

例えば、皆さんの好きな英語の映画があるとします。好きな俳優さんの映画でも結構です。何度も見たくなるような映画であれば最も好ましいです。ここでは、「ハリー・ポッター」のDVDを例に使ってみましょう。皆さんも昔ご覧になったことがあると思います。シリーズ最初の「賢者の石」を使います。



まず、音声を英語、字幕を英語に設定します。すると夜の街をさまよっているダンブルドア校長が猫に向けて、

“I should’ve known that you would be here, Professor McGonagall.”
と話しかけるシーンから始まります。できるだけ字幕を見ないようにして聞き取るようとしてください。I should’ve の部分は日本の英語教育を受けた人にとって、意味は分かるが聞き取れないと思います。でもこの「意味が分かる」ことがとても大事なのです。学校教育の賜物です。ただ、実際の会話での発音の仕方、語彙の使い方は、書き言葉とは違います。高校までの英語教育ではそれがきちんと分けて教えられていません。さらに、McGonagallは固有名詞ですから、Professorだけ聞き取れば十分です。すると次のシーンでは、マクゴナガル副校長が猫から変身し、

“Are the rumors true, Albus?”
と尋ねます。Albusは勘のいい人なら、ダンブルドア校長のファーストネームだと気付くかもしれません。2人は並んで歩き、校長が次のようにつぶやきます。

“I’m afraid so, professor. The good and the bad.”
この辺りは聞き取れる人も多いはずですが。2人の会話は次のように続きます。

“And the boy.” “Hagrid is bringing him.”
原作を日本語吹き替えで見た人は、the boyがハリー・ポッ

Study 1
映画鑑賞からの視点

映画のDVDを使って リスニング力を身に付ける

同志社大学グローバル地域文化学部教授
植松 茂男氏

Point

- 音声を英語、字幕を英語に設定し、好きな映画を見る
- 字幕なしで見ても、台詞が頭に浮かぶまで繰り返し見る
- 意味が分からない箇所は、日本語字幕を参考にする

ターを指していると分かるはずですが。

そこに空からハグリッドが現れ、3人は赤ん坊を抱いて、ある家に向かいます。

“Do you really think it’s safe, leaving him with these people?”

“I’ve watched them all day. They’re worst sort of Muggles.”

マクゴナガル副校長は再び懸念の言葉を繰り返します。Muggleが「普通の人間」を表す魔法界の用語だということを知らない場合は、ストーリーを前もって一度通して、日本語で見ておくのが良いかもしれません(ほとんど忘れてしまった人も)。

その後、ダンブルドアは涙ぐむハグリッドを、
“There, there, Hagrid. It’s not really goodbye, after all.”
となだめ、(There, thereがなだめる言葉だと分かればすばらしい!)

“He is far better off growing up away from all of that.” “Until he is ready.”

と言いながら、ドアの前に赤ん坊を置いて
“Good luck! Harry Potter.”
と告げます。

ここまで約2分程度の会話ですが、これを字幕なしで見ても全て台詞が頭に浮かぶまで、繰り返し見ます。英語の意味が分からない箇所は、日本語字幕を参考にしても良いでしょう。これが1回分の練習です。丁寧にやると1時間近くかかると思います。多すぎる場合は調整してください。

DVDを使ったこの方法では「字幕」という強力な助っ人がいます。どうぞ留学せずとも本物の英語力を是非身に付けてください。

参考文献
 Gilakjani, A. P. (2016). The Significance of Listening Comprehension in English Language Teaching. *Theory and Practice in Language Studies*, 6(8), 1670-1677.
 Hayati, A., and Mohmedi, F. (2011). The effect of films with and without subtitles on listening comprehension of EFL learners. *British Journal of Educational Technology*, 42(1), 181-192.
 Napikul, S., Cedar, P., and Roongrattanakool, D. (2018). The Effects of Film Subtitles on English Listening Comprehension and Vocabulary. *International Journal of Applied Linguistics & English Literature (IJALEL)* 7(6), 104-111.

Profile
 うえまつ・しげお 同志社大学グローバル地域文化学部教授、大学英語教育学会(JACET) 理事、関西支部長。1957年生まれ。大阪大学文学部卒業、コロンビア大学院修了。Ed.D.(教育学博士)。摂南大学教授、京都産業大学教授などを経て、現職。専門は言語習得論、英語教授法、早期外国語教育など。著書に『英語学習と臨界期 第2言語習得研究と帰国生教育から』(松柏社)、『Long-term effects of Learning English』(Springer) などがある。

19歳のとき、私は自分が抱えていた1つの矛盾に気が付きます。それは、日本人として生まれたことを悔しく思ってしまうほど渴望していた、「英語が話せるようになりたい」という夢を持ちながら、目標である「英語が話せる」の定義を全く理解していない、という矛盾です。一体何をクリアしていれば「英語が話せる人」なのか？どこからがペラペラなのか？これらを知らずに漠然と勉強をしていた私は、ゴール地点を知らずに走り出してしまったマラソン選手のようなでした。

そんな自分に訪れた「英語が話せる」の定義が決まった日の話です。

当時ミュージシャンとして活動していた私は、あるとき憧れだったアメリカのロックバンドと日本で共演します。終演後「高校生の頃からあなたの音楽をずっと聴いていたんです！」と話しかけようとしたのですが、「ずっと聴いている」が言えず、言葉に詰まってしまいました。あとで調べてみると、「I've been listening to your music since I was in high school.」という中学文法で言えるフレーズだったことを知ります。大学受験を通してもっと難しい単語を知っていたはずの私ですが、実際にはこんなに簡単な文章を「瞬時に口から出す」ことができなかつたのです。

このとき、ある種のひらめきのようなものが頭をよぎります。

逆に言えば、このフレーズを瞬時に口から出せていたら、私はその場における「英語が話せる人」になれていたのではないかと。

「英語が話せる」とは、難しい単語を知っていたり、単に留学歴のある人のことを指すわけではなかつたのです。考えてみれば、アメリカ人の小学生はボキャブラリーに限りがあるものの、確実に英語が話せる人ではあるわけです。この事実にも鑑みて、「英語が話せる」は、「今私が言いたいオリジナル英語フレーズを瞬時に口から出せる能力」と定義付けできると考えました。

定義が分かった私は、「いつか自分が言いそうなオリジナルフレーズ」を先回りしてリストアップしました。

例：「今日何してたの？→インターン先でデザイナーとしての仕事が始まったんだ」

「週末は何するの？→友達とキャンプに行くよ」

「最近調子はどう？→今学期は単位を取るのがなかなか難しく悩んでいるの」

Study2

日常生活からの視点

話したいことは生活の中に。 だから、英語で日記を書こう

イラストレーター、作家、ミュージシャン

新井 リオ氏

Point

日本語で日記を書き、何を言いたいのか浮き彫りにする

インターネットや辞書を使い、自力で日記を英訳する

スマートフォンの音声入力機能で発音を矯正しながら音読

ここであることに気が付きます。これらは全て、便利フレーズ集を何周しても出てこないじゃないか。言いたいことは全て、「自分の生活の中にあるのだ」と。

そして思い付いたのが「日記」でした。日記に書くようなパーソナルな内容を全て英語で言えるように練習すれば、自分にとっての「英語が話せる」を完全にクリアできると思ったのです。

その日から私は「英語日記」を書き始めました。まずは日本語で簡単な日記を書き、自分が何を言いたい人間なのか浮き彫りにします。次にインターネットや辞書を使い入念に意味を調べな

がら自力で英語に訳し、さらにオンライン英会話の先生に添削してもらいます。仕上げに、英語設定に変えたスマートフォンの音声入力機能に向かって話しかけ、発音を矯正しながら100回ほど音読し、瞬時に口から出せるように練習します。

今年でこの習慣も7年目になりました。今、私はおそらく2,000以上のオリジナル英文を持っている人、ということになります。このくらの数があると基本的な会話は全てカバーできます。慣れてくれば、これまで日記に使ったフレーズ同士を組み合わせ、瞬時に新しい英文を作ることも可能です。

確かに時間はかかりますが、「時間をかけることを肯定してあげる」のがスキル習得の掟となります。長年地道に続けてマスターした事実こそが私を励ましてくれるのです。勉強はいつでもできる青春などと、本気で思っています。



新井氏がSNSに投稿した英語日記

Profile

あらい・りお イラストレーター、作家、ミュージシャン。1994年東京都生まれ。立教大学社会学部卒業。イラストレーターとしてAdobe CC Logo Remix、WIRED.jp連載イラストなどを手掛ける。カナダでのデザイナー生活と英語独学法をつづった著書『英語日記BOY 海外で夢を叶える英語勉強法』(左右社)が、Amazon本総合人気度ランキング1位を記録。DMM英会話Blog、日経doorsにて連載を執筆中。バンドPENs+のボーカルとして日本で4枚のCD、アメリカで1枚のレコードをリリース。

公開テストスケジュール

公開テストスケジュールは変更されることがございますので、最新の情報は公式サイトでご確認ください。

TOEIC® Listening & Reading Test



回数	試験日	申込期間 ^{※1}	結果発送予定日
第282回	2021年11月28日(日) 午前	2021年10月7日(木) ~ 2021年10月11日(月)	2021年12月28日(火)
第283回	2021年11月28日(日) 午後	2021年10月14日(木) ~ 2021年10月18日(月)	2021年12月28日(火)
第284回	2021年12月19日(日) 午前	2021年10月28日(木) ~ 2021年11月1日(月)	2022年1月18日(火)
第285回	2021年12月19日(日) 午後	2021年11月4日(木) ~ 2021年11月8日(月)	2022年1月18日(火)
第286回	2022年1月30日(日) 午前	2021年12月2日(木) ~ 2021年12月6日(月)	2022年3月1日(火)
第287回	2022年1月30日(日) 午後	2021年12月9日(木) ~ 2021年12月13日(月)	2022年3月1日(火)
第288回	2022年2月27日(日) 午前	2022年1月6日(木) ~ 2022年1月11日(火)	2022年3月29日(火)
第289回	2022年2月27日(日) 午後	2022年1月13日(木) ~ 2022年1月17日(月)	2022年3月29日(火)
第290回	2022年3月20日(日) 午前	2022年1月27日(木) ~ 2022年1月31日(月)	2022年4月19日(火)
第291回	2022年3月20日(日) 午後	2022年2月3日(木) ~ 2022年2月7日(月)	2022年4月19日(火)

TOEIC® Speaking & Writing Tests

TOEIC® Speaking Test



試験日	申込期間 ^{※1}	結果発送予定日
2021年11月7日(日)	2021年9月24日(金) ~ 2021年10月22日(金)	2021年12月7日(火)
2021年12月5日(日)	2021年10月22日(金) ~ 2021年11月19日(金)	2022年1月4日(火)
2022年1月16日(日)	2021年11月19日(金) ~ 2021年12月28日(火)	2022年2月15日(火)
2022年2月20日(日)	2021年12月28日(火) ~ 2022年2月4日(金)	2022年3月22日(火)
2022年3月27日(日)	2022年2月4日(金) ~ 2022年3月11日(金)	2022年4月26日(火)

TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests



回数	試験日	申込期間 ^{※1}	結果発送予定日
第81回	2021年11月14日(日)	2021年8月9日(月) ~ 2021年10月14日(木)	2021年12月17日(金)
第82回	2022年3月6日(日)	2021年10月18日(月) ~ 2022年1月27日(木)	2022年4月8日(金)

TOEIC Bridge® Speaking & Writing Tests



試験日	申込期間 ^{※1}	結果発送予定日
2021年11月21日(日)	2021年9月10日(金) ~ 2021年11月5日(金)	2021年12月24日(金)
2022年3月13日(日)	2021年11月5日(金) ~ 2022年2月25日(金)	2022年4月15日(金)

*上記は個人でお申し込みいただく際の申込期間です。団体一括試験申込期間 (TOEIC® Speaking Testを除く) は公式サイトでご確認ください。

(※1) 申込開始および締切時間については公式サイトでご確認ください。

本誌は公式サイトでもご覧いただけます。

https://www.iibc-global.org/iibc/activity/iibc_newsletter.html



IIBC

世界は、あなたでつながる。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication

IIBC公式サイト <https://www.iibc-global.org>

社外からの寄稿や発言は、必ずしも当協会の見解を表明するものではありません。

【お問い合わせ】

東京

名古屋事業所

大阪事業所

東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル

愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル

大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル

TEL.03-5521-5901

TEL.052-220-0282

TEL.06-6258-0222